

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390200246		
法人名	株式会社 大淵産業		
事業所名	グループホーム清流		
所在地	〒869-4721 熊本県八代市昭和日進町会通152-3		
自己評価作成日	令和04年3月5日	評価結果市町村受理日	令和4年4月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	令和4年3月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームでは、日常生活動作が殆ど全介助の利用者様と殆ど自立に近い利用者様がいらっしゃいます。介護度がそれぞれ違う中で、トラブルなく良好な関係や交流が出来るよう常に見守り、必要に応じて間に入り支援を行っています。また、コロナ禍で外出支援が出来ない分を施設内で楽しみが持てるよう、おやつ作りやレクリエーション、体操、家事のお手伝いを小まめに声掛けして行って頂き、残存機能の維持を図ったり役割を持って生活にメリハリがもてるように心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人で最初の介護事業所として開設したホームは、周辺を特産品のトマトやキャベツ、イチゴなどのハウスに囲まれている。コロナ感染症への対応から以前のような外出支援は少なくなっているが、花見や初詣をはじめ状況を見ながらドライブの機会を設ける他、庭先に出ていつでも散歩や日光浴が楽しめるよう折り畳みの椅子が玄関先にスタンバイしている。食事は食材に応じた専門店を活用し、職員によるホーム内調理が継続されており、現在は職員と一緒にテーブルを囲むことは控えているが、見守りや介助を受けながら食事を楽しまれている。また、梅ジュースや団子、饅頭作りをはじめ、巻きずし作りなど入居者の出番が数多く持たれている事で、コロナ禍にあっても不安の解消や、やりがいをもって生活する事が出来ている。現在、法人は3か所のグループホームを同市内で運営しており、今後も個々や地域のニーズに応えながらより良い支援を継続されていくことを期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに ○ 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	定期的に事業所理念を職員間で共有し、年に一度は理念に改善点等が無いかなコンファレンスを行うようにしている。また理念を見える所に貼ったり、管理者から職員へ確認するようにしている。	毎月のカンファレンスで入居者への支援を通じて理念に立ち返り、年度末等には内容に変更しかかわらず見直している。入退居が続き、入居者の介護度等にも大きな変化があった事で、介護量より入居者の役割を見極める事にシフトチェンジしながら、入居者主体のホーム運営を継続している。	開設時からの理念を大切にしながらケアに当たっているが、内容についてはホームの基本的な姿勢はそのままに、文言等を検討される事で更に分かりやすく、親しみのあるものになると思われる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近年はコロナ禍で地域との交流は殆ど無いが、年に数回、近所の小学校から折り紙や手紙を頂いている為、それを利用者様に読んで頂いたり、作ってくれた折り紙をレクリエーションに活用させて頂いている。	コロナ禍により以前のような交流はできなかったものの、地域との野菜のやり取りや隣家に住む高齢者を案じての声掛け等、これまで通りの生活が続いている。運営推進会議が久しぶりに通常開催となった折りには、「自分の地域のこのような施設がある事が分かり勉強になった。」との声が挙っている。グループホーム連絡協議会の活動も再開され会議が実現している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近年のコロナ禍で、あまり活かす事が出来ていないが、コロナが落ち着いた時期に民生委員さんや老人会長、地域包括の方、市役所の方に来て頂き運営推進会議を開催した。初めて参加された民生委員さんへ老人会長さんは「とても勉強になった。」と喜んでおられた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で、殆どの会議は資料配布のみになっている。ただ、開催前にはお知らせと何かご意見等があるかその都度、確認している。	運営推進会議は資料送付による書面開催となっていたが、社会の状況を見ながら11月には通常開催が出来ている。関係者と一堂に会した会議として直接顔を合わせる事で本来の話し合いが出来たとの職員の声がか聞かれている。写真により入居者の普段の様子をみてもらい、ヒヤリハットや事故報告、身体拘束適正化委員会を設置して研修報告やホームの取り組みを伝えている。	今後、書面開催が続く事も予想され、資料送付時、地域の声や次回会議に反映されるような取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の資料配布だけではなく、事故時の早急な報告や介護報酬や加算変更時の相談や報告は積極的に行うようしている。	行政の運営推進会議への参加により、ホームの現状を理解してもらっている。報告書の提出や集団指導についての意向調査等に対応しながら良好な関係継続に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な身体拘束適正化検討委員会の開催や、外部研修や内部研修で確認したり、事例を通して職員間で話し合ったりしている。	運営推進会議に身体拘束適正化委員会を設置し、ホームの現状を報告して参加者からの質問や疑問に応じている。また、“虐待の芽チェックリスト”で振り返り、人感センサーの使用については家族の同意を得た上で必要性の可否を見極める事としている。	馴染みの関係であるがゆえに、言葉使いにきになる点や職員同士の会話のトーンがつい大きくなる等を課題として上げている。職員はホーム内研修の他、他事業所との合同勉強会により拘束についても認識を深めており、身近な問題として継続した取り組みに期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束適正化検討委員会や研修だけでなく、管理者と職員との報連相を小まめに行う事で、ケアの見直しや虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は以前研修で学習したが、最近の情報は確認出来ていない。また権利擁護に関する制度についての内部研修は出来ていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、家族様に丁寧な説明を心掛けている。また、不安や疑問点は、契約時やその都度、尋ねて頂くよう声掛けしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や介護保険・計画書の更新時等に確認するようにしている。意見や要望が出た時は、職員や必要に応じて外部者へ伝え反映出来るよう努めている。	入居者には日々のケアの中で聞き取りしている。家族には面会が制限された中でも来所された時には入居者の現状を伝えながら、意見や要望をもらうよう投げかけ、職員と共有し日々の支援に反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンス時や普段の業務時に職員から出た意見や提案は、必ず受け止めるようにしている。また必要に応じて他の職員や代表者へ相談し、反映させている。	ホームでは何でも言える関係づくりに努めており、職員意見を吸い上げケアの質の向上に努力している。法人施設との合同勉強会や行事などを通して互いの情報を共有してホーム運営に反映している。職員自身にとっても働きやすい職場づくりを目指し、月3日の希望休や有休取得、育児休暇後の職場復帰などを後押ししている。	パンフレットに記載されている職員配置については、定期的な見直しが必要と思われる。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者から代表者へ、職員個々の努力や実績等を伝えるようにしている。また少しでも向上心を持って働けるようソフト面や必要に応じてハード面の提案を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スキル向上を希望する職員には研修を受ける機会を作ってもらったり、他の事業所との合同勉強の機会を確保してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	上記のように同業者との合同勉強の開催や外部研修ではズームが行えるようインターネット環境の改善をしてもらっている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様や家族様との会話、言動等を記録に残し、それを職員間で情報共有している。また本人様や家族様の意向等を把握し、出来る限り希望に添えるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の訪問時や面会時には、本人様の近況報告や家族様からの意見要望を尋ねて、積極的に話しかけや関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前のアセスメントをしっかり行い、職員間でも話し合いながら必要に応じた支援を行うように努めている。また管理者や計画作成担当者から本人様に必要と思われる他のサービスがある場合は、提案するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や洗濯、料理の盛付けは職員と一緒にしたり、利用者様1人1人に応じた出来る作業はお願いするようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院受診時や面会時、特に看取り時は、小まめに連絡を取り一緒に考えたり、意見を尊重するようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍により支援出来ていない事が多い。ただ、馴染みの美容室がある利用者様には家族様の協力も得ながら継続出来ている。	職員は夜の入眠をせかすことなく、“夜の女子会”を開いて録画した馴染みの番組を見たり、雑談をしながらひと時を過ごす工夫をしている。入居者は率先して食事作りに関わり、行事を通じて恵方巻やいならずし、お盆の迎え団子や餅つき、梅や柿の保存食など、四季を通じて馴染みの手仕事を用意されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者1人1人の生活歴や性格を把握、理解するように努め、利用者同士がストレスなく共同生活が送れるよう座席の配置や環境等を配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	看取りで死去された時は、通夜や告別式に参列し、家族様のフォローを大切にしている。また他事業所へ転居された場合は、他事業所への情報提供を行うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話の中から希望や意向を汲み取ったり、会話が困難な利用者様は家族様から聞き取りを行ったりするようにしている。	職員は時間を見ては入居者に寄り添い、身近な食や外出、してもらいたいことなどの思いを引き出し、職員同士の会話やカンファレンスで提案している。家族の意見や要望は面会時や電話で入居者の現状を伝えながら聞き取り、支援に反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメントや入居時に本人様や家族様から聞き取りを行う等、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	普段の会話や言動から現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	事前に行ったアセスメントの結果や本人様、家族様からの意向を職員間でも共有し、意見や提案を聞いて介護計画を作成するようにしている。	計画作成担当者は本人・家族の意向を優先し、カンファレンスでの職員意見を反映したプランを作成している。入居間もない方の生活歴から、家族の話を収集し、前施設などでの暮らし方を踏まえ暫定でプランを立案している。本人のできる事で身の回りを整えてもらい、ホーム活動に参加しながら徐々に他者との関わりが持てるような内容を目標に掲げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の介護記録や連絡ノートに職員の気づきや様子を記入し職員間で情報共有出来ている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズに対応するよう努めているが、柔軟な支援やサービスの多機能化が行えているかは難しい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の小学校との交流や初詣は近くの神社まで歩いて行ったり、コロナ禍で難しい所もあるが、少しでも地域資源を活用するようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時は、家族様へ状況を丁寧に説明したり、往診の先生には状況説明や積極的な相談等を行い、スムーズな連携が行えるよう努めている。	かかりつけ医は本人・家族の希望に応じて支援しており、現在は3か所の医療機関からの訪問診療と、家族による受診対応が行われ結果を共有している。歯科は希望や必要時に支援している。職員は主治医や週1回の訪問看護と連携を図りながら、入居者の健康を支えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回の訪問看護の健康観察時には利用者様の身体状況の報告を行ったり、排便コントロールや体調不良時は早めの状況報告や相談を行うようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には口頭での説明や情報提供書を早急に提出するようにしている。また退院調整は、なるべく家族様や病院等の希望に合わせるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	体調が安定されている時に終末期のあり方を話す事は出来ていないが、看取りに入った瞬間には本人様や家族様と話し合い、密に連携を取り、チーム全体で支援に取り組んでいる。	入居時に指針をもとに主治医との連携や訪問看護の存在を含め、看取り支援に取り組んでいることを伝え、事前指定書を受けている。また、家族の思いは変化するものであり、指定書については必要に応じて意向を再確認している。家族の中には特養を考慮しておられる方や、入居前から特養を申し込まれ転院された方もおられる。この1年で2名の看取り支援が行われており、家族からホームでの生活が穏やかであったことなどに感謝の言葉が寄せられている。看取り支援後は振り返りの機会をもっており、職員間のチームワークが本人・家族の思いに応えている。	地域の同業者間で開催している合同勉強会の中で、ホームの看取り支援事例について話を行っている。ホームに看護師が配置されていない事から訪問看護にどこまで頼ってよいのかなど職員からの意見が出されており、今後の課題とされることが期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急措置の研修を定期的に受けている。訪問看護や主治医と連携し、初期対応がスムーズに行えるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の様子を民生委員や老人会長に見学して頂いた。今後も色々な災害を想定し、定期的に地域の方々と一緒に訓練を行う機会を作っていきたい。	11月に火災訓練を実施しており、2回目の訓練は3月中に予定している。以前、地域の消防団の参加を得て夜間訓練が実施されており、今後も地域との協力体制に努めたいとしている。災害備蓄は玄関入口で管理し、入居者の衣服もビニールに入れて確保している。ホーム周辺の掃除や居室のコンセントの埃チェックなど、意識を持って行っている。	管理者は水害や夜間想定 of 訓練を実施したいとしており、取組が期待される。夜間想定 of 訓練については、夜勤専従者の参加が得られるとより有効と思われるが、困難であれば、訓練の詳細を伝え共有されることが期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	出来るだけ意識して行うようにしているが、時折プライバシーの配慮に欠ける声掛けやケアが見受けられる事がある。	プライバシーや尊厳に配慮した支援について共有に努めているが、声掛けが馴れ合いになっている点を今後の課題としている。呼称は苗字にさん付けや家族からの希望で下の名前でも対応している。衣服の選択を自分でされる方や一緒に行く等必要なサポートに努め、洗顔や入浴後に保湿をされる方には不足する事のないよう気を配り、早めに家族へ依頼している。入居者自ら「足りなくなったよ〜！」と、伝える方もおられるようである。理美容支援は現在、訪問カットを支援している。	課題としている馴れ合いの声掛けや、在室の有無に関わらずノックの徹底など、今後も身近な事例をあげながら振り返りの機会を持たれることを期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴や排泄、着替え等、本人様の希望や意思確認を行うようにしている。また普段の会話の中での傾聴や会話が困難な方は、表情や言動で気持ちを汲み取るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や就寝時間は本人のペースに合わせるようにしている。入浴や食事時間は、1人1人に合わせるのが難しい時もあるが、必ず本人様に確認するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った衣類の準備や本人様と一緒に着替えの洋服を選ぶようにしている。また定期的に訪問散髪を読んだり、毎朝の整容は声掛けしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナ禍で、一緒に食事を摂る事は難しいが、適宜声掛けをしている。また料理の盛付けや食器拭き等は、本人様に合わせた作業をお願いしたり、おやつ作りや行事食は一緒に作っている。	開設時から専門店を中心にした食材を使い、ホーム内での調理が行われ、現在殆どが常食であるが、嚥下状態に応じキザミ食の提供も行っている。入居者は普段から食器拭きや盛り付けなどに関わってもらい、梅ジュースや盆団子作り、巻きずし、ホットプレート料理、ソーメン流しなど季節に応じた出番も多く用意されている。職員は現在、感染症への対応から一緒にテーブルを囲むことは控えているが、同じ食事を摂っており思いを共有している。ご飯の量や「朝食時はみそ汁がいい！」など、要望があがった際は、速やかに検討している。	ホーム内での調理は入居者の食事への楽しみや職員にとっても仕事への活力となっており、変わらぬ支援に期待したい。また、入居者と職員がテーブルを囲んで一緒に食事を摂れるよう、感染症の終息が待たれる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人様の希望や体調、体重に応じた御飯量や副菜量を考えて提供している。なるべくバランス良く食べて頂けるように必要に応じてカットしたり、声掛けを行っている。また食事量や水分量は毎日記録に記載している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの声掛けを行い、出来る方は見守りし、難しい方は介助にて仕上げ磨きをしている。歯の痛み等がないか確認したり、必要に応じて歯科診療を勧めたり、定期的に訪問歯科を依頼されている利用者様もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人の排泄パターンを把握し、その方に合った方法を行っている。また排泄パターンが変化の方は随時、検討し変更している。紙パンツやパッドを追加するだけでなく、失敗が減った方は布パンツに変更し、自立に向けた支援に努めている。	排泄パターンを共有し、個々に応じた声掛けや誘導、自立の継続ができるようにしている。日中はリハビリパンツや布パンツ(パット併用の方もあり)で過ごされており、夜間はオムツを使用される方もおられる。適切な排泄用品についても検討を重ねており、紙から布パンツに変更など、状況に応じて支援している。入居者の中には失敗した際、自ら下着を洗濯し居室の軒先を洗濯干し場として干される方もおられる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、排便確認を行い、普段から体操や朝食時のヨーグルト提供にて予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	可能な限り、本人様の希望に対応出来るように心掛けているが、ハード面(給水タンク)やその時の職員の人員配置によっては充分な対応が出来ない時がある。	入浴時間など可能な限り個々の希望に努めながら、週2~3回の支援が行われている。現在、入浴を好まれない方はおられず、ゆっくりと楽しまれており、車いす利用の方は機械浴で支援している。5月には菖蒲を湯船に入れたり頭に巻くなど昔ながらの取組に喜ばれたようである。また、冬至には柚子風呂楽しんでいる。	柚子風呂など季節湯を支援する際は、数日間実施することで、全員が楽しめると思われる。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や状況に応じて、声掛けしたり休憩時間を設けるようにしている。就寝時間も本人様の希望やペースに合わせるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1人1人の内服薬一覧表をいつでも見れるようにしている。服薬提供時には、ダブルチェックを行い誤薬がないよう努めている。薬が変更された時や症状が変化した場合は、訪問看護師や主治医に相談したり説明したりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人1人にあった家事手伝いをお願いしたり、毎日のレクリエーションで楽しみを持って頂けるよう努めている。生活歴で好んでされていた事を把握し、なるべく出来るように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で、外出の機会が少なくなっているが、苑内散歩や施設内での行事を行い、日々季節を感じて楽しんで頂けるよう努めている。	この1年も以前のように外出支援は難しかったが、入居者の体調や感染症の状況を見ながら紫陽花見学や系列ホームでの芋ほり、1月には初詣に出かけている。また、家族との受診の際は、公園でおやつを食べて帰られるなど、家族との時間を大切にしている。敷地内の散歩や日光浴は継続して取り組んでおり、玄関先にはすぐに取り出せるよう腰掛け用の椅子が準備されている。寒い時期は回廊になっているホーム内を散歩代わりに歩かされている。	感染症の終息を待ちながら、引き続き出来る外出支援の継続に期待したい。また、DVD、ユーチューブなどを活用し、全国の開花状況や観光地巡りなど旅行気分を味わうような取組も良いと思われる。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理に問題(金銭に執着したり家族間でのトラブル等)がある方もいる為、基本的に施設が管理している。コロナ禍が落ち着いたら、一緒に買物へ行ってご自身で支払えるような支援を行っていききたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様に電話をかけたいと希望があった時は、なるべく希望に添えるように努めている。今後、年賀状や暑中見舞いのハガキ作成も行っていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた貼り絵等を一緒に作成し、壁に飾ったり、テレビ台や玄関に花や置物を置いたりしている。また不快に感じない程度に換気したり、エアコンの調整を行っている。	建物の中央に設けられた中庭にはミニ菜園や花壇が設けられ、入居者はリビングやウッドデッキから季節の移り変わりを眺めておられる。また職員の持ち寄る草花や入居者も一緒に作成する壁面の掲示など、随所に季節を感じる環境である。食事をはじめ集いの場となっているリビングホールでは、就寝前「夜の女子会」として大好きな時代劇(水戸黄門)を見ながらゆっくりと過ごされた後、床につかれるようである。女性の出番が多い中、男性入居者も得意のハーモニカを披露されるなどリビングが活用されている。。ホーム内は掃除や換気、消毒の徹底と、エアコンの使用も入居者の状況を見ながら調整している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事時は利用者同士のトラブルを防止する為、席が決まっているが、食事時以外はテーブル席もそれぞれが自由に座って頂けるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されていた馴染みのある家具や写真、希望される方にはテレビを持って来て頂き、少しでも自宅に近い環境作りを行っている。	入居前のホーム内見学も感染症対策を施し実施し、馴染みの家具や使い慣れた品の持ち込みについて説明している。広めの居室であり、ゆとりをもって持ち込みが可能である。ジュータンを敷きテーブルと座椅子を置き自宅に居るように寛がれる方や、持参した衣類を選びやすいようにハンガーにかけている方など使いやすい工夫も見られた。テレビを持ち込まれた方もおられるが、部屋で見られる方は少なく、リビングで他の入居者と談笑しながら見られている。	面会を控えている家族にとって居室内の様子は気になる点と思われる。居室の環境整備への取組状況など、安心に繋がる発信に期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	カレンダーや季節物の設置を行い、動線や共同スペース(ホールやトイレ等)は片づけて、転倒予防に努めている。トイレや入浴は、なるべく見守り出来る事は行って頂けるようにしている。		